

# 26年8月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 7月20日～ 26年8月10日

## 2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
8月分の回答企業数は8社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

### (1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/8月	9月	10月
仕入動向	国産材製材品	△ 18.8	18.8	6.3
	外材製材品	△ 25.0	△ 6.3	△ 6.3
	構造用集成材	0.0	0.0	7.1
消費動向	国産材製材品	△ 21.4	14.3	0.0
	外材製材品	△ 12.5	6.3	△ 6.3
	構造用集成材	0.0	14.3	14.3
在庫動向	国産材製材品	△ 18.8	△ 6.3	△ 6.3
	外材製材品	△ 25.0	△ 12.5	△ 18.8
	構造用集成材	△ 14.3	△ 7.1	△ 7.1

プレカット加工用部材の仕入れは、国産材は8月の減少が9月、10月は増加に、外材は3ヵ月連続の減少、構造用は8月、9月の横ばいが10月には増加に。

国産材製材品及び外材製材品の消費は、8月の減少、9月の増加を経て10月は横ばいなしやや減少、構造用集成材は8月の減少が9月、10月は増加に。

国産材製材品、外材製材品及び構造用集成材の在庫は、3ヵ月連続の減少。

### (2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	26/8月	9月	10月
受注	12.5	6.3	6.3
加工	△ 12.5	6.3	6.3
受注残	12.5	△ 6.3	△ 6.3

受注は、増加傾向で推移。

加工は、8月の減少が9月、10月は増加に。

受注残は、8月の増加が、9月、10月は減少傾向に。

## モニターからのコメント

### (加工用部材荷動き)

- ・仕入れは、当用買いが一番安い、物件が全国的に出だしたら一気にコストアップの感あり、先々をみて先物と合わせて在庫確保。消費は、昨年同時期にはやはり及ばないがダラダラと続いている感じ。9月から厳しい。適正在庫をキープして仕入れを平準化する。
- ・仕入れ、消費とも長期休暇入りで減少。在庫は一定水準を確保。
- ・6月～8月は加工量は少ないが、9月より増えると予想（見積もり、打ち合わせ多い）\*加工量の半分は持ち込み材料。
- ・仕入れは価格も手配も容易、消費は本格的な回復までは行かない。

### (受注動向)

- ・8月は一時的に忙しくなっているように見えるが、ずれ込みもあるため、多め多めに物件を確保する。
- ・受注順調に推移。お盆休暇に入るため加工減少、それに伴い受注残も増加。
- ・平年並みの受注に戻ってきた。